

3. 平成 24 年度事業計画書

1	概要	72
2	会議・会合	73
3	粉体工業展	74
4	常置委員会	75
5	規格・標準化委員会	78
6	分科会	79
7	粉体工業技術センター	84
8	技術情報交流懇話会	85
9	共催・協賛及び後援行事	85
10	刊行物	86

平成 24 年度委員会及び分科会等の組織図

3. 平成 24 年度事業計画書

(平成 24 年 3 月 16 日理事会承認)

自 平成 24 年 4 月 1 日

至 平成 25 年 3 月 31 日

1. 概要

わが国の国内経済は、昨年の中東大震災、それに伴う環境変化、歴史的な円高の進行、タイの洪水被害の影響などで、極めて厳しい状況に見舞われていましたが、ここに来て株価の 1 万円台回復、円安基調、大震災復興需要の本格化など、復調の兆しが広がりつつあります。

まだ本格的な回復には不透明な材料もありますが、協会としては、粉体工業技術の開発・普及を通じて、社会から求められる使命と役割を積極的に果たしていきたいと考えます。

公益目的事業(継続事業)活動の柱である分科会活動を中心とする調査・研究事業、月刊情報誌「粉体技術」の発行等による広報・普及事業、教育部門を中心とする人材育成・教育事業、JIS、ISO等の規格・標準化事業、及び海外交流事業等、これまでの事業を引き続き強力に推進します。

また、これら公益目的事業を支える展示会事業、標準粉体製造頒布事業に加え、会員共益事業の積極的展開を図り、粉体工業技術があらゆる産業の基盤技術であり、先端技術への入口を占めることを深く認識し、魅力ある事業活動の展開と活性化に取り組んでまいります。会員各位のご支援ご協力をお願い申し上げます。

今年度は、「ユーザー視点と実際の設計に役立つ分科会活動」、「国際粉体工業展東京2012の目標達成」、「ナノ物質への検討・対応」、「技術情報交流懇話会等会員共益活動の推進」を活動の重点目標に掲げたいと思います。

1) 公益目的事業(継続事業)の活動計画概要

1. 1) 調査・研究事業

19 の分科会が中期的テーマを掲げ、活動を展開します。バルクハンドリング分科会は「粉体ハンドリング分科会」と改称し、より広範囲のハンドリング技術に取り組みます。

技術委員会は、その傘下に「ナノ物質検討委員会」を新設し、冊子「ナノ物質の安全な取り扱い」(仮称)を出版するほか、「ナノ物質の粒子径計測を含むキャラクタリゼーション」に注力します。

1. 2) 広報・普及事業

(1) シンポジウム・フォーラム等の開催

「粉体工業技術に関する調査研究の成果の提供」の一環として、当年度も積極的にあらゆる機会を通じ、粉体技術フォーラム、セミナーあるいはシンポジウムの開催に努めます。また、他の学協会との共催、後援及び協賛行事にも積極的に参加し、ホームページ、メールマガジン等及び月間情報誌「粉体技術」を通じ、粉体工業技術の普及と啓発を推進します。

(2) 粉体技術相談事業

国際粉体工業展東京2012で「技術相談コーナー」を開設し、技術相談に応じるほか、産学技術交流推進部門が、常時、粉体技術相談に対応し、産学との技術交流の役割を果たします。

1. 3) 人材育成・教育事業

粉体技術者の継続的、専門的生涯教育及び人材育成の一貫として、当年度も以下の講座、セミナーを開催します。

・粉体入門セミナー(Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)(粉体工学会企画)	3 回
・粉体エンジニア早期養成講座(11 講座)	11 回
・粉体技術専門講座(分科会企画)	3 回
・粉じん爆発・火災安全研修【初級】【中級】	各 1 回
・経営講座	2 回

1. 4) 規格・標準化事業

最近の社会的課題である粉体工業製品の安全性、環境保全、省エネルギー等に関わる規格・標準化に、今後も積極的に関与していきます。標準粉体委員会はサブミクロン及びナノ粒子の取り扱いに関する調査を更に進めます。

ISO 対応委員会粒子特性評価小委員会(TC24/SC4)は、引き続き「微粒子分散系の評価に関する国際標準開発」事業を推進し、4月の第42回国際会議への参加(オーストリア)、11月の東京における国際会議の運営に携わります。ふるい小委員会(TC24/SC8)も、5月の国際会議(ベルリン)に代表を派遣します。集じん技術小委員会(TC142/WG7)は、引き続き「バグフィルタ用ろ布の耐久性試験法に関する国際標準開発」事業を中心に活動し、9月の国際会議(チューリッヒ)に参加します。

1. 5) 海外交流事業

今年度も中国・上海粉体工業展(IPB2012)に協賛し、海外交流委員会が協会ブースおよび Japanese Pavilion を開設します。また、5月のシカゴ粉体工業展、平成25年2月のインド ChemTECH に協賛し、協会 PR ブースを出展します。6月のACHEMA2012(独・フランクフルト)には4つの分科会が視察団を派遣し、現地企業との技術交流及び見学会を企画しています。

2) その他事業の活動計画概況

2.1) 展示会事業

国際粉体工業展東京2012を、11月28日～30日、東京ビッグサイト(東1・2・3ホール)で開催します。今回は開催時間を延長して10:00～18:00(但し30日は17:00まで)とし、300社・団体、1,000小間の開催規模で目下出展募集中です。なお、粉体工業展名古屋2012は震災等諸般の事情で中止することが決定済みです。

2.2) 標準粉体製造頒布事業

国内、海外ともに、標準粉体の主要需要先である、自動車部品産業、電子部品産業に関わる予測が付き難い状況ではあるが、昨年度並みの計画を見込んでいます。また、標準粉体委員会とタイアップし、換気用エアフィルター性能試験用粉体の商品化を計画します。

2.3) 会員共益事業

- 以下の活動を通じて、会員相互の親睦と技術情報交流、人脈形成、親睦等の促進を図ります。
- ・技術情報交流懇話会・・・火(4回)、水(3回)、木(4回)、金(3回)曜会、合計14回
 - ・推薦審査委員会・・・例年通り、分科会功労賞、個人会員・会友の入会審査、協会賞、粉体工業展賞、粉体工業功績者表彰の審査・推薦を行います。
 - ・人材育成委員会・・・引き続き年間3回の「営業・管理部門の若手のつどい」を開催します。また、国際粉体工業展東京2012開催に併せ、粉体関連企業内定者等を対象にした「学生ツアー・交流会」を企画・開催します。

2. 会議・会合

2.1 第31回定時総会

開催日時: 平成24年5月29日(火) 13:00

場 所: 東京・東京ガーデンパレス

次 第: *総会

*表彰式

協会賞授与、粉体工業展賞授与、粉体工業功績者表彰

*特別講演

*懇親会

2.2 理事会

開催日時	開催場所
第1回平成24年 5月10日(木) 15:00	大阪/ANAクラウンプラザホテル大阪
第2回平成24年 5月29日(火) 14:40	東京/東京ガーデンパレス
第3回平成24年 8月3日(金) 11:30	東京/東京ガーデンパレス
第4回平成24年 11月21日(水) 12:30	京都/京都センチュリーホテル
第5回平成25年 3月19日(火) 12:30	大阪/ANAクラウンプラザホテル大阪

2.3 常務会

	開催日時	開催場所
第1回	平成24年4月10日(火) 14:00	東京/東京ガーデンパレス
第2回	平成24年7月10日(火) 13:30	東京/東京ガーデンパレス
第3回	平成24年11月14日(水) 13:30	名古屋/名鉄ニューグランドホテル
第4回	平成25年3月7日(木) 13:30	大阪/ANAクラウンプラザホテル大阪

2.4 定例会合

	開催日時	開催場所
秋期定例会合	平成24年11月21日(火) 15:00	京都/京都センチュリーホテル

2.5 分科会連絡会議および委員会・部門連絡会議

分科会連絡会議	平成25年1月25日(金) 13:00	名古屋/名鉄グランドホテル
委員会・部門連絡会議	平成25年1月26日(土) 9:30	名古屋/名鉄グランドホテル

3. 粉体工業展

3.1 国際粉体工業展東京2012の開催

来る11月28日(水)から30日(金)までの3日間、国際粉体工業展東京2012が開催される。粉体工業展は当協会にとっても、また粉体機器・技術に関する事業者の方々にとっても最大のイベントであり、あらゆる“粉”に関する情報を発信、且つ触れ合う最大の機会でもある。

東京ビッグサイトに会場を移して2回目の開催、地理的、施設の優位性を生かし、開場時間を1時間延長して10:00から18:00(最終日30日は17:00まで)とし、さらに魅力的な展示会づくりを目指して綿密な準備を進めつつある。

◇開催概要

会期:2012年11月28日(水)～30日(金) 10:00～18:00
会場:東京ビッグサイト 東1・2・3ホールおよび会議棟
テーマ:この一粒・・・夢をかたちに一粉の技術ー

◇出展対象技術・製品

製造・プロセス機器ゾーン

粉碎装置/ふるい分け装置/分級装置/ろ過装置/混合装置/混練装置/造粒装置/コーティング装置/コーティング装置/乾燥装置/供給装置/輸送装置/分散装置/集じん装置/成形装置/表面改質装置/包装装置/焼成装置/他

計装・測定、ラボ機器ゾーン

計測機器/計装機器/ラボ機器/制御システム/FA装置/他

材料、エンジニアリング・情報ゾーン

新素材/フィルター材/スクリーン/機能性粉体/エンジニアリング/受託加工サービス/出版/コンピュータシステム/助材/他

ナノマテリアルゾーン

材料・素材/計測・測定・評価/超微細加工技術/環境・エネルギー/作業環境管理(ナノ粒子の安全性)/ばく露防止・作業管理まで

◇今回の特色

●特別講演

初日の11月28日(水)に「グリーンイノベーションとナノサイエンスのつながり」と題し、(株)トヨタ自動車 電池研究部長 射場英紀氏による特別講演を開催する。

●最新情報フォーラムの開催

展示会場内に特設展示ゾーンとして「ナノマテリアルゾーン」「二次電池展示ゾーン」を設置する。「ナノマテリアルゾーン」では、会期中、「ナノ物質ばく露防止技術セミナー」をはじめ、ナノマテリアルをテーマにしたフォーラムを開催する。

「二次電池展示ゾーン」では、二次電池をテーマにした特別講演や最新情報フォーラムを開催する。

- 粉じん爆発情報セミナー
粉じん爆発の危険性評価、予防などをテーマにしたセミナーを開催
- ナノ物質ばく露防止技術セミナー
粉じん爆発の危険性評価、予防などをテーマにしたセミナーを開催
- 製品技術説明会のテーマ枠が最大 63 に拡大
製品技術説明会の会場は、3 会場で最大 63 テーマを募集、発表会場も展示会場内に設置する。
- 特別展示(粉の広場)
アカデミックコーナー、テーマパネル展示コーナー、分科会展示コーナー、標準粉体展示コーナー、技術相談コーナーをはじめ、多彩なイベントを企画している。

◇同時開催

- 粉体工学会秋期研究発表会

4. 常置委員会

4.1 総務委員会 (辻本 進委員長、杉田 稔副委員長、棚橋 純一副委員長)

委員会開催予定:4 回

活性化小委員会及び海外交流委員会との WG を適宜開催予定

活動:

- (1) 2012/2013 年版「事業案内」(和・英)の改訂・発行
- (2) 「粉体技術」編集委員会合宿への参画。議論に参加し、広報の立場で提言を継続。
- (3) 協会ホームページ(和・英)の逐次バージョンアップ
- (4) APPIE メールマガジンの発信
- (5) 会員強化対策
 - ・粉体工業展大阪 2011 での勧誘活動:レビューと今後の方針立案
 - ・国際粉体工業展東京2012 での非会員出展企業への勧誘活動
 - ・長期スリーピング会員の退会防止策の検討
 - ・会員と非会員格差の明確化
 - ・新規入会会員の参加支援: ①入会時のオリエンテーション資料作成、
②技術懇話会でのショートプレゼンテーション
- (6) 広報活動
 - ・海外広報:課題と取組み策の整理、アンケートの解析と方向性確認(海外交流委員会と共同)
 - ・協会 PR 資料の作成と活用促進:FOOMA JAPAN2012 協会ブースの活性化
 - ・一般向けセミナー、講演会の企画模索

4.2 技術委員会(増田 弘昭委員長)

- ・「分科会、委員会に共通する技術的問題への対応」を業務所掌とし、標準粒子、規格、ISO対応等から産学連携、教育に至るまでの多岐に渡る技術的問題に逐次対応していく。
- ・今年度から、技術委員会に「技術用語検討委員会」に加え、新しく「ナノ物質検討委員会」を設ける。
- ・分科会運営委員から依頼のあった「粉体技術発表会」の企画・実施について、技術委員会としては、分科会活動の現状報告ではなく、粉体工学会の「粉体技術セッション」のような企画で、企業側が技術発表する場を提供することを検討していく。
粉体工学会との協調も含め検討する必要がある。H24 年度の秋期を目標に先ず学会で協議いただき、その後、技術委員会で討議する。

4.2.1 技術用語検討委員会 (増田 弘昭委員長、牧野 尚夫副委員長)

委員会開催予定:2~3 回

「技術用語検討委員会」は下記 1)、2)を継続する。

- (1) ②「粉体技術用語集-2」(粉体技術基礎)の作業を継続し、「粉体技術」への掲載を継続する。
- (2) ①「粉体技術用語集-1」(共通基礎)、③「粉体技術用語集-3」(単位操作)及び④「粉体技術用語集-4」(粉体計測)の検討を順次進める。

4.2.2 ナノ物質検討委員会 (明星 敏彦委員長)

平成 21 年 3 月 31 日の厚労省「ナノマテリアルに対するばく露防止等のための予防的対応について」の通達を受け、特別委員会を組織し、本通達に対応すべく、これまで議論をし、且つ情報・資料の蒐集およびガイドライン(案)の作成に取り組んできた。その成果は成書「ナノ物質の安全な取り扱い」として出版する予定であるが、安全と衛生上の観点からは、積み残した課題も多い。したがって、後継となる委員会を、技術委員会の傘下に組織し、主として以下のような問題について検討したい。

- 1) 粉体設備の密閉化の有効性
- 2) 局所排気装置の有効性
- 3) 集塵装置のサブミクロンからナノ粒子に対する有効性
- 4) 呼吸用保護具の使用方法的教育
- 5) 工場で使用可能な粉じん測定装置

当面、「ナノ物質の粒子径計測を含むキャラクタリゼーション」が、当協会が最も注力すべき課題であり、経産省「ナノ物質の管理に関する検討会」計測技術WGとの関連から見ても、重点的に進めることになると思われる。会合開催は、4 回程度(場所は協会の京都または東京事務所)を予定したい。

また、経産省「ナノ物質の管理に関する検討会」等の活動状況、NBCI等他の団体との連携を図りながら進める。

4.3 「粉体技術」編集委員会 (大矢 仁史委員長、鈴木 道隆副委員長、谷 正美副委員長)

委員会開催予定：4回

小委員会開催予定：12 回(毎号印刷前、於：京都・協会本部)

活動：

- (1) 編集基本方針に沿った粉体関連産業に携わる方々への情報誌として魅力的な特集記事とともに、月刊誌としての会員相互のコミュニケーションの促進に寄与できるような協会関連情報を充実する。
同時に粉体関連技術知識等、教育的内容として粉体技術用語集を今年の 1 月号より掲載する。
また、粉体関連の技術者、研究者以外の読者にも好まれる「先達の言葉」、「カメラルポ」、「現場ルポ」等とともに、今年から連載小説の掲載を行う。さらに「先達・達人の金言に学ぶ」の次のコラムとして、京都史跡にまつわる裏話などを掲載する。
- (2) ドイツで開催されるACHEMA2012(6/18～22)に、取材記者(2 名)を派遣する予定。
- (3) 平成 24 年 12 月号までの特集記事の予定は下記の通りである(仮題)。
 - 4 月号 分科会特集
 - 5 月号 湿式プロセスにおける水処理と材料創生
 - 6 月号 資源と粉体技術
 - 7 月号 食の安全・安心を考える
 - 8 月号 BCP(Business Continuity Plan)
 - 9 月号 海外市場への関心：中国事情とACHEMA
 - 10 月号 汚染技術
 - 11 月号 ナノ粒子分野の新しい動き
 - 12 月号 再生エネルギー

4.4 推薦審査委員会 (増田 弘昭委員長、加藤 文雄副委員長)

委員会開催予定：3 回(10 月、1 月、3 月、いずれも協会本部)

活動：

- (1) 分科会功労賞の推薦審査
- (2) 個人会員・会友・名誉個人会員の推薦審査、現個人会員の見直し及び会長答申
- (3) 協会賞(功労賞、技術賞)、粉体工業展賞、粉体工業功績者の推薦審査

(4) 官公庁及び協会関連団体の褒賞に対する対象者の推薦審査

4.5 粉体工業展委員会（大川原 武委員長、谷本 友秀副委員長、菅原 一博副委員長）

委員会開催予定：1～2回（日時、場所は未定）

小委員会開催予定：適宜

活動：

(1) 中長期計画(2012～2016年)の策定

国際粉工展東京 2012、2014、2016 および粉工展大阪 2013、2015 を開催、粉工展名古屋は当分の間開催予定なし。

(2) その他 展示会付随事項について

4.5.1 東京粉体工業展委員会（谷本 友秀委員長、大川原 正明副委員長、矢澤 明人副委員長）

委員会開催予定：5回（4、6、8、10、12月）場所は協会東京事務所ほか

小委員会開催予定：適宜

活動：「国際粉体工業展東京2012」

(1) 会期、会場

会期：平成24年11月28日(水)～30日(金) 10:00～18:00 3日間
(30日(金)最終日は17:00まで)

会場：東京・ビッグサイト(東京国際展示場) 東1～3ホール及び会議棟

(2) キャッチコピー：「この一粒…夢をかたちに一粉の技術—」

(3) 開催規模：目標は300社・団体、1,000小間(内有料小間800)とする。

(前回実績：265社・団体、941小間(内有料747)、来場者14,881名)

(4) 出展料：前回2010と同じ(会員@325,500、非会員@367,500他)

(5) 併催行事の予定

①特別講演：トヨタ自動車・電池研究部長 射場英紀氏 テーマ：自動車と粉体(仮題)

②最新情報フォーラム：テーマ「ナノ物質」、「二次電池」、「リサイクル」(検討中)

③粉じん爆発情報セミナー、ナノ物質ばく露防止技術セミナー

④粉の広場：テーマ展示「粉体シミュレーション最前線」、アカデミックコーナー、技術相談コーナー

⑤「国際」の企画：粒子計測の海外エキスパート(ISO/TC24/SC4)によるセミナー等

⑥粉体工学会PRコーナー：こなの解説(仮題)

⑦学生ツアー：例年通り

4.5.2 大阪粉体工業展委員会（菅原 一博委員長、加藤 文雄副委員長、杉山 周宏副委員長）

委員会開催予定：3～4回（日時、場所 未定）

小委員会開催予定：適宜

活動：

(1) 第9回の反省を踏まえ、第10回目となる次回“粉体工業展大阪2013”の開催(インテックス大阪、H25年10月16日～18日予定)に向けての準備

(2) 主たる課題としては、

①運営の強化(出展促進、出展料・会場の見直しなど)、②併催事業の検討、

③同時開催事業との調整、④運営面での改善、⑤その他

4.6 分科会運営委員会（杉田 稔委員長、伊ヶ崎 文和副委員長）

委員会開催予定：4回(7,8,11,3月 京都ほか)

活動：

(1) 分科会活動の活性化に向けて、分科会視察(モニタリング)活動やヒアリング活動等を通じて得た知見や問題点等を検討し、分科会活動の方向性を提案して行く。

(2) 8月には拡大運営委員会を開催し、開催時に4～5の分科会のヒアリングを実施し、問題点の抽出と討議を実施し、それらの共有化を図る。

(3) 例年と同様の委員会を開催し、分科会活動活性化の方向性を検討する。

- (4) 委員により各分科会活動を視察し、活動状況の実際を把握し、更なる分科会活動の活性化の道を探る。

4.7 海外交流委員会（辻 裕委員長、森 康維副委員長、赤堀 肇紀副委員長）

委員会開催予定： 2回(7-8月-東京、3月-京都/東京TV会議)

小委員会開催予定： 企画小委員会： 1回(秋 次年度計画について)

活動：

(1) 海外行事対応

出展予定

- ・北京粉体工業展 ; 2013年3月(依頼があれば出展、協賛団体となる)
- ・シカゴ粉体工業展 ; 2012年5月8日～10日(出展、協賛団体となる)
- ・上海粉体工業展 ; 2012年10月17日～19日(出展、協賛団体となる)
- ・Chem TECH World Expo ; 2013年1月(出展、協賛団体となる)

(2) 日本企業による製品紹介セミナーを中国で開催する可能性を探り、機械器具ユーザーを中心とした集客等の見通しがたてば、年度内に実施したい。

(3) 海外行事の情報を収集し APPIE 会員へ広報する。

(4) APPIE 情報の海外への発信(APPIE Annual Report)

(5) 各種、海外からの協力要請に対応する。

4.8 人材育成委員会（大川原 正明委員長、西村 卓朗副委員長）

委員会開催予定：3回(7月-東京、10月-東京、2～3月-東京)

小委員会開催予定： 未定(国際粉体工業展東京2012 学生ツアー等、必要時に適宜開催する)

「営業・管理部門の若手のつどい」 開催予定：3回(7月-大阪、10月-東京、2～3月-東京)
(内1回は新方式で開催する)

活動：

(1) 年間3回の「営業・管理部門の若手のつどい」を開催する。

(2) 国際粉体工業展東京2012の学生ツアー・交流会に対する企画運営等の支援を行う。

4.9 標準粉体委員会（吉田 英人委員長、森 康維副委員長）

委員会開催予定： 2回(10月、2月 於：協会本部)

小委員会開催予定： 1回(5月-協会本部)

活動：

- (1) 試験用粉体(SAP 試験用粉体3)の商品化(販売目標は平成24年度中に製造部門へ移管)
- (2) 上記試験用粉体の協会規格の作成と提案
- (3) 20-100nm に分布する試験用粉体についての物性調査。

5. 規格・標準化委員会

5.1 規格委員会（遠藤 茂寿委員長）

委員会開催予定： 2回(5月-東京/協会東京事務所、下期-京都～東京/TV会議)

小委員会開催予定： なし

活動：

(1) JIS 原案作成及び見直し

- ・SAP 12-10「可燃性粉じん・空気混合気の最小着火エネルギー測定方法」の JIS 原案作成および提案
- ・Z 8820-1(液相重力沈降法)の改正提案について、対応 ISO の状況に応じて検討
- ・Z 8820-2(ピペット法), Z 8823-2(液相遠心沈降法), Z 8824(試料調製-液中分散)の3件の見直し

(2) 協会規格原案作成及び見直し

- ・「圧密粉体のせん断特性測定方法」原案作成への協力
- ・SAP 05-98「粉体の仕様表示方法に関するガイドライン」の改正
- ・協会活動における成果の協会規格化
- ・協会規格の利用状況および規格制定の要望について、アンケート調査を行う。

5.2 ISO 対応委員会 (遠藤 茂寿委員長、内海 良治副委員長、吉田 英人副委員長)

委員会開催予定: 1回(4又は5月-協会東京事務所)

小委員会開催予定:

粒子特性評価小委員会: 2回(6,1月)

6月-第42回会議報告と43回会議への対応

1月-第43回会議の報告と今後の対応

ふるい小委員会: なし

集じん用技術小委員会:委員会;3回(4~5, 7~8, 10~11月)

WGは小委員会の開催日に併催(場所:東京)

WG-B:TC142/WG7 ラウンドロビンテストおよびWD16891の原案づくり

WG-C:TC142/WG5 PWI16313の検討と集じん機試験法の日本からの提案、提言。

JACA TC142 国内委員会

5.2.1 粒子特性小委員会(桜井 博小委員長)

(1)ISO/TC24/SC4 会議へ日本代表団として出席し、国際規格作成に積極的に参画する。

・第42回会議(Graz, 2012年4月16-17日)

・第43回会議(東京・産総研臨海センター, 2012年11月26-27日)

(2)ISのSRおよび規格案に対して国内WGを中心に審議し投票する。

(3)レーザ回折法など、日本からの新規国際規格案の提案を積極的に行う。

(4)第43回会議の開催

(5)Powtexにおいて、「粒子特性のキャラクタリゼーションと標準粒子・試験用粒子開発の国際的な現状と動向」に関する講演会を開催

・第43回会議に参加する国内外の研究者・技術者による講演を行う。

5.2.2 ふるい小委員会(内海 良治小委員長)

平成24年5月10、11日:ISO/TS24&SC8 会議(場所:ベルリン (Deutschland))開催の場合は、出席する。平成23年度のSystematic ReviewでCommentsした内容について主張する。

5.2.3 集じん技術小委員会(金岡 千嘉男小委員長)

(1)TC142/WG7の日本主導による推進

(2)TC142/WG5への積極参加

5.3 粉じん爆発委員会(土橋 律委員長、榎本 兵治副委員長、林 浩司副委員長)

委員会開催予定: 3回(H24.7月、12月、H25.3月-協会東京事務所)

小委員会開催予定: 耐爆構造規格検討小委員会、事例勉強会を上記本委員会と同時同日に開催。その他WG会合等適宜実施。

活動:

(1)教育部門「粉じん爆発・火災安全研修【初級】と【中級】」企画・開催(安衛研と共催)

【初級】平成24年9月20~21日に京都府京田辺市(同志社大学/田辺キャンパス)にて開催

【中級】平成25年3月14~15日に東京都清瀬市((独)労働安全衛生総合研究所)にて開催

(2)協会規格SAP 12-10「可燃性粉じん・空気混合気の最小着火エネルギー測定方法」のJIS化準備

(3)耐爆構造対応検討・・・厚生労働省 安全課との折衝等

(4)国際粉体工業展東京2012「粉じん爆発情報セミナー」企画・開催

(平成24年11月30日(金) 午後 東京ビッグサイト)

(5)IEC/TC31 国内委員会への参加強化

(6)「粉じん爆発・火災安全研修」のオーム社テキスト改訂の計画と体制の検討

6. 分科会

6.1 粉体ハンドリング分科会

(松本 幹治コーディネータ、松坂 修二副コーディネータ、村上 徹代表幹事、海老原 裕之副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	5～6月	関東地区	技術講演、製品紹介、懇親会
第2回	9～10月	関西地区	工場見学、技術講演、懇親会
第3回	11～12月	関東地区	技術講演、製品紹介、懇親会
第4回	2～3月	関東地区	技術講演、製品紹介、懇親会

幹事会開催予定: 4回 (上記本会合に併せて開催)

活動:

- (1) 粉体ハンドリングシステムの技術講演、工場見学、機器・装置の紹介を行う。
- (2) 粉体エンジニア早期養成講座への講師派遣と会場提供を行う。
- (3) 分科会への新規参加会員の拡大を図る。
- (4) 海外視察団派遣、海外事情紹介等海外交流を推進する。(ACHEMA2012 6/18-22 視察団検討)
- (5) テーマ遂行のため戦略会議(臨時幹事会)を必要に応じて開催する。
- (6) 会員企業の現地法人情報交換会の定期開催を検討する。(中国上海他)

6.2 粉砕分科会 (齋藤 文良コーディネータ、大木 達也副コーディネータ、三代 秀久代表幹事、伊藤 均副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	7月	瑞浪市	粉砕技術
第2回	11月	水戸市	リサイクルと粉砕

幹事会開催予定: 2回 (上記本会合に併せて開催)

小委員会開催予定: 1回 (場所 東京)

活動: 「粉砕技術とその高度化」をテーマに活動を継続していく。

- (1) 上記テーマに則した本会合の開催
- (2) 早期養成講座(粉砕)の開催
- (3) 韓国、中国とのシンポジウムについて準備協議

6.3 分級ふるい分け分科会

(吉田 英人コーディネータ、秋山 聡代表幹事、谷川 英昭副代表幹事、広瀬 潤三副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	6月	東日本	電子部品工場の見学
第2回	H25.2月	西日本	粉体製造工場の見学

幹事会開催予定: 3回 (6、11、2月 場所未定)

活動:

分科会本会合を2回開催する予定である。広く市場で使用されている基盤的なものから先端的な商品まで、幅広い粉粒体製造プロセスに関連する工場見学と講演会を実施し、粉体材料の粒子径調整技術の動向を調査する。

6.4 乾燥分科会 (田門 肇コーディネータ、大森 隆夫副コーディネータ、脇屋 和紀代表幹事、諏訪 聡副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	6月	茨城県常総市	SMC 筑波工場
第2回	12月	東京	IDS2012 報告他

幹事会開催予定:

幹事会 2回 (6、12月 場所未定)

活動: 「化学関連の乾燥に関する講演と工場見学」をテーマに活動を継続していく。

- (1) 第1回乾燥分科会: 化学関連工場の見学講演会(合同開催予定)
- (2) 第2回乾燥分科会: IDS2012からの報告講演、乾燥装置関連の講演会

6.5 集じん分科会

(金岡 千嘉男コーディネータ、牧野 尚夫副コーディネータ、後夷 光一代表幹事、金子 裕副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	6月	未定	ろ布耐久性 ISO 化、ユーザー視点、集じん多機能化
第2回	11月	未定	
第3回	H25.2月	未定	

幹事会、小委員会開催予定:

幹事会: 3~4回(随時、時期、場所 未定)

小委員会: 3回(随時、時期、場所 未定)

活動:

- (1) ろ布耐久性 ISO の基礎研究や中国とのラウンドロビント結果等を、日中技術交流会を兼ねて分科会を企画する。
- (2) 集じん装置のユーザー満足度の向上や先端技術の提供
- (3) 粉体エンジニア早期養成講座の開催

6.6 混合・成形分科会

(遠藤 茂寿コーディネータ、鈴木 道隆副コーディネータ、藤井 淳代表幹事、菅原 一博副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	6月	未定	工場見学会
第2回	未定	未定	講演会

幹事会・小委員会開催予定:

幹事会: 2回(6月頃 場所 未定、8月 京都/菅原精機㈱)

活動:

- (1) 粉体混合・成形がキープロセスである製薬・製薬技術やセラミックスの成形技術など、一連の粉体プロセスにおける今日的な課題に焦点を合わせた活動(見学会、講演会)を行う。
- (2) 小委員会活動にて取り組んでいる混練状態評価法は、粉体混合・混練の主な機構と装置の特徴を標準とする原料により比較評価する方法であり、標準化を目標に検討をすすめる。

6.7 造粒分科会 (村瀬 和典コーディネータ、武井 孝副コーディネータ、吉原 伊知郎代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	7~9月	未定	工場見学会
第2,3回	H25.3月	伊豆高原	技術討論会

幹事会開催予定: 5回(5, 7~9, 11月-未定、3月(2回)-ライオン㈱ 伊豆研修センター)

小委員会開催予定: 1回(4月-未定)

活動: 「芸術にかかわる造粒技術」をテーマに活動していく。

人間社会の運営に必要な「人間性」「社会性」に貢献している芸術を、造粒という分野から眺めて、どのような技術が関与しているか、またそれが、新しい社会の工業技術にどのように利用できていけるか。テーマを細分化して詰めてゆく。

特に、ともすれば無機的になりがちな工業技術を、人間性を付加する芸術の分野で活躍している造粒技術に光を当てて、今後の工業社会にどのように生かされてゆくか企画の中で検討してゆきたい。

6.8 計装測定分科会 (森 康維コーディネータ、藤 正督副コーディネータ、鷲尾 一博代表幹事、大畑 学副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	6月	東日本	粉体関係の工場見学
第2回	9月	西日本	同上
第3回	H24.1月	東京	計装測定講演会

幹事会、小委員会開催予定:

幹事会: 3回(6月-東日本、9月-西日本、H25.1月-東京)

活動: 「サブミクロン粒子、ナノ粒子の測定法検討」をテーマとする。

- (1) 本会合3回の内、1回は講演会とし、ナノ粒子計測に関する話題に取り組む。
- (2) 残り2回は見学会とし、その内1回は合同分科会として、他の分科会との交流を深める。

6.9 湿式プロセス (東谷 公コーディネータ、後藤 邦彰副コーディネータ、石川 敏代表幹事、諏訪 精一副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	6月	ドイツ	国際会議
第2回	6月	東京	食品関係の見学講演会(合同)
第3回	11月	未定	鉱山関係の見学講演会

幹事会開催予定：2回(6、11月－場所 未定)

小委員会：2回(4、12月－場所 大阪)

活動：

- (1) 粉体エンジニア早期養成講座をより良いものにすべく検討を重ねる。
- (2) 「粉体技術」特集記事の企画(キーワード:水処理、材料創成)
- (3) 他の分科会・団体との協同

6.10 粒子加工技術分科会 (福森 義信コーディネータ、竹内 洋文副コーディネータ、大川原 正明代表幹事
伊藤 有一/浅井 直親副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	6月	ドイツ	見学講演会
第2回	9月	大阪	同上
第3回	H25.2月	未定	同上

幹事会開催予定：

幹事会：4回(6月－ドイツ、9月－山形、10月－豊橋、H25.2月－未定)

活動：

- (1) 粒子加工技術の関連企業での見学会及び製剤に関する講演会・・・3回
- (2) 製剤と粒子設計シンポジウムを粉体工学会の部会とともに共催し協力を続ける・・・1回
- (3) 粉体エンジニア早期養成講座開講・・・1回

6.11 輸送分科会

(田中 敏嗣コーディネータ、武居 昌宏副コーディネータ、井上 照男代表幹事、
勝島 慎二郎/岸本 武志副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	7月	関東	見学・講演(合同分科会)
第2回	10月	関西	見学・講演(合同分科会)
第3回	H25.3月	関東	見学・講演

幹事会開催予定：

幹事会：5回(4月－関東、7月－中部、10月－関西、12月－中部、H25.3月－関東)

活動：

- (1) 輸送設備が多く導入されてきた分野の再確認と今後の動向の認識
- (2) 新市場を中心として、年3回の分科会の開催とそれに関わる新技術の講演の企画

6.12 クリーン化分科会

(藤井 修二 コーディネータ、大谷 吉生副コーディネータ、渡辺 幸次代表幹事、宇治 勝幸副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	6月	つくば	SMC 工場施設見学と講演会(乾燥分科会と合同)
第2回	11月	都内	クリーン化技術講演会
第3回	H25.2月	未定	工場見学と講演会

幹事会開催予定：

幹事会：3回(6月－つくば、11月－都内、H25.2月－未定)

活動：

第1回分科会として、産業用空圧制御機器で世界首位のSMC殿の工場見学会と講演会を乾燥分科会と合同で開催する。クリーン化の世界標準化の動きとしてのISO動向にも注視していく。

6.13 環境エネルギー・流動化分科会

(堀尾 正靱コーディネータ、幡野 博之副コーディネータ、鈴木 康夫代表幹事、高島 久継副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	7月	神奈川県	講演会、見学会
第2回	10月	大阪	環境エネルギー技術調査
第3回	H25.2月	沖縄	環境エネルギー技術調査

幹事会開催予定:

幹事会:3回(7月-神奈川県、10月-大阪、H25.2月-沖縄)

活動:

震災後の環境問題、エネルギー問題に対応した廃棄物関係の技術を中心に流動層技術の将来像を掴む。見学会、講演会を合わせて3回開催予定。

6.14 晶析分科会

(柘植 秀樹コーディネータ、尾上 薫副コーディネータ、山崎 康夫代表幹事、
橘高 幸志/高橋 謙之 副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	6月	ドイツ	国際フォーラム
第2回	8月	京都	フローリアクターによる晶析他
第3回	11月	東京	国際シンポジウム

幹事会・小委員会開催予定:

幹事会:7回(4、7、H25.3月-千葉、5月-未定、6月-ドイツ、8月-京都、11月-東京)

小委員会:5回(4、7、H25.3月-千葉、5月-未定、6月-ドイツ)

活動:

- (1) フローリアクターによる晶析に焦点をあてて、医薬品、食品、化学など多様な産業での応用事例を紹介する。
- (2) 講演会は3回開催。
- (3) 国際展示会などでの国際フォーラム、シンポジウムを企画する。

6.15 微粒子ナノテクノロジー分科会

(神谷 秀博コーディネータ、宮原 稔副コーディネータ、左合 澄人代表幹事、福井 武久副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	6月	ドイツ/フランクフルト	未定
第2回	12月	未定	未定
第3回	H25.2月	未定	未定

幹事会開催予定:

幹事会:4回(4月-名古屋、7、12、H25.2月-未定)

活動:

- (1) 粉体工学会「粉体ナノテクノロジーグループ会」や他の分科会との連携による、新規粉体プロセス基盤技術、応用展開に関する講演会の開催
- (2) 協会内外の組織との連携によるナノリスクに関わる情報収集と発信

6.16 静電気利用技術分科会

(日高 重助コーディネータ、松山 達副コーディネータ、畠中 伸代表幹事、乾 薫副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	6月	東京(同志社大学東京オフィス)	講演4件
第2回	10月	東京(東京ガーデンパレス)	講演4件
第3回	H25.2月	京都(同志社大学)	専門講座

幹事会開催予定:

幹事会:3回(5、9、12月-東京 協会東京事務所)

活動:

- (1) 粒子帯電制御研究会との協力関係を構築し会員増強を目指す。
- (2) 粒子帯電制御研究会と静電気利用技術分科会の方向性が重複・乖離しない方向性を見出し、過去に稼動していた電子写真に関心の高い会員への配慮も行う。

6.17 電池製造技術分科会

(境 哲男コーディネータ、堤 敦司副コーディネータ、仲田 眞三代表幹事、
大石 鮎太/鈴木 弘充 副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	5月	東京	最先端電池材料技術

第2回	11月	大阪	次世代電池
第3回	H25.2月	兵庫県	未定

幹事会開催予定:

幹事会:3回(5月-東京、11月-大阪府池田市、H25.2月-兵庫県淡路市)

活動:

電池ユーザー、電池メーカー、電池材料メーカー及びその原料粉体処理技術を担う粉体関連業界と、官、学を、情報及び人脈において橋渡しする運営を目的とする。

6.18 リサイクル技術分科会

(大矢 仁史コーディネータ、外川 健一副コーディネータ、荻田 哲也代表幹事、蓮池 達央副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	6月	敦賀市	二次電池のリサイクル
第2回	9月	仙台市	震災廃棄物のリサイクル
第3回	H25.2月	九州	バイオマスエネルギー

幹事会開催予定:

幹事会:4回(6月-敦賀市、9月-仙台市、12月-未定、H25.2月-九州)

活動:

- (1) 近い将来、拡大が期待できる二次電池のリサイクルに関する講演会や見学会を開催し、レアメタルのリサイクルに関する問題点や話題を会員に提供する。
- (2) 東北の震災地に出向き、講演会と施設見学を行い、問題となっている廃棄物リサイクルの現状と問題を浮き彫りにする。
- (3) 九州地区で盛んに行われている「バイオマスエネルギー施設」を見学し、創エネルギーの将来への可能性を会員とともに考える。

6.19 食品粉体技術分科会

(高井 陸雄コーディネータ、羽倉 義雄副コーディネータ、山田 幸良代表幹事、宗利 浩文副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	6月	静岡市	菓子類、レトルト製品の工場見学
第2回	9月	金沢市	最新鋭の精米工場見学
第3回	H25.2月	関東	未定

幹事会開催予定:

幹事会:3回(6月-静岡市、9月-金沢市、H25.2月-未定)

活動:

平成23年度に引き続き、活動テーマに沿って、最新鋭の工場の見学や講演会などで、新しい情報・技術を習得できるような分科会活動を実施していく。

また、合同分科会も積極的に企画することで、情報交換、人脈形成の場を提供する。

7. 粉体工業技術センター (大川原 武センター長、豊見 昭副センター長)

7.1 教育部門 (日高 重助マネジャー、大川原 正明副マネジャー、齋藤 文良副マネジャー、)

委員会開催予定 :1回(11月-京都開催)

小委員会開催予定:「粉体エンジニア早期養成講座実行小委員会」:1回(4月-京都開催)

活動:

粉体技術の基礎的事項から、専門応用的内容までをカバーする多くの講座を開催し、いつでも希望する事項が学べる環境を作り、粉体技術者の育成に貢献することを目指していく。

H24年度 各講座開催予定

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 1) 粉体入門セミナー | 3回(京都) |
| 2) 専門講座 | 3回程度 |
| 3) 粉体エンジニア早期養成講座 | 11講座 |
| 4) 粉じん爆発・火災防止安全研修 | 1回(初級-京都開催)、1回(中級-東京開催) |
| 5) 経営講座 | 2回(春、秋) |
| 6) 特別講座は適宜開催する。 | |

- (1) 入門セミナーⅠ、Ⅱ、Ⅲは、今年は京都で、6月(2回)、7月に開催する。
ミニテストを実施、修了証を発行する。
- (2) 分科会企画の専門講座を、今年度は3回程度開催予定である。
- (3) 「粉体エンジニア早期養成講座」を11講座開催する。(細川明彦・佐知子基金補助対象事業)
- (4) 「粉じん爆発・火災安全研修」【初級】(京都開催)、【中級】(東京開催)(粉じん爆発委員会企画)

7.2 製造事業部門 (豊見 昭マネジャー)

活動:

- (1) SAPフィルター試験用粉体(仮称)の開発と商品化
換気用エアフィルター性能試験用粉体としてJIS試験用粉体1の各種を更に微粉化し、SAP制定、製造・販売を開始する。将来、JIS試験用粉体3として規格化を目指す。
- (2) サブミクロン試験用粒子の分散、使用方法に関する調査研究
使用者に対して情報提供と指導のための資料を作成する。

【平成24年度収支計画】

項目	H23年度予算(千円) A	H24年度予算(千円) B	B/A(%)
製造部門事業収入	80,000	80,000	100
製造部門 事業費	59,200	59,200	100
製造部門 粗利益	20,800	20,800	100

7.3 産学技術交流推進部門(竹内 和マネジャー、菅原一博副マネジャー)

産学技術交流を通じて、粉体関連技術の発展を目指し、23年度の活動を24年度(24~25年度の期限付)にも継続して、さらなる効果を出すことを目指す。

活動:

- (1) 粉体技術情報の発信
- (2) 産学官および企業間の技術情報の交換
- (3) 粉体技術関連人材の育成
- (4) 粉体技術の継承

会合開催予定:

- (1) 粉体技術セミナー(春、秋 各1回、京都近辺で開催)
- (2) 技術相談 非会員のユーザーと協会企業との連携を深める。
- (3) テクノカフェ(各シーズンに1回)

小委員会開催予定:

部門会議:2~3回(上期、下期各1回、他1回)

8. 技術情報交流懇話会

- 8.1 火曜会: 東京にて4回開催する。
4月10日、7月10日、10月9日、H25.1月15日
- 8.2 水曜会: 名古屋にて3回開催する。
6月13日、11月14日、H25.2月13日
- 8.3 木曜会: 大阪にて4回開催する。
5月10日、9月6日、12月6日、H25.3月7日
- 8.4 金曜会: 福岡にて3回開催する。
6月22日、10月26日、H25.3月22日

9. 共催・協賛及び後援行事

(H24.4.1～H24.5.14 確定分)

9.1 共催

行事名	開催日	開催場所	主催団体
第47回技術討論会	H24.6.12 ～6.13	東京/東京大学生産技術研究所	粉体工学会
The 5 th Asian Particle Technology Symposium (APT2012)	H24.7.2 ～7.5	National University of Singapore (NUS)	APT2012(日本においては16学協会)
第29回エアロゾル科学・技術研究討論会	H24.8.28 ～8.30	北九州市/北九州学術研究都市会議場	日本エアロゾル学会

9.2 協賛

行事名	開催日	開催場所	主催団体
第22回最新科学機器展 第10回計量計測総合展	H24.4.18 ～4.20	名古屋/名古屋市中心小企業振興会館	東海科学機器協会 (社)愛知県計量連合会 フジサンケイ ビジネスアイ
日本エネルギー学会[リサイクル・バイオマス・ガス化]三部会(RGB)シンポジウム	H24.5.18	東京/全国家電会館5階	(一社)日本エネルギー学会
FOOMA JAPAN 2012	H24.6.5 ～6.8	東京/東京ビッグサイト	(社)日本食品機械工業会
環境資源工学会第128回例会	H24.6.7	大阪府吹田市/関西大学100周年記念会館	環境資源工学会
ACHEMA2012 見本市視察とドイツ・スイス 粉体事情視察団	H24.6.17 ～6.23	ドイツ、スイス	日本通運(株) 京都旅行センター
平成24年度第1回講演会 頑張ろう!日本の塗装現場ー塗装工場再建へのゴミ不良対策事例ー	H24.6.22	東京/日本塗装技術協会	日本塗装技術協会
TECHNO-FRONTIER 2012	H24.7.11 ～7.13	東京/東京ビッグサイト	(社)日本能率協会
第12回2012熱設計・対策技術シンポジウム 第26回2012EMC・ノイズ対策技術シンポジウム	H24.7.11 ～7.13	東京/東京ビッグサイト	(社)日本能率協会
XXVI International Mineral Processing Congress 2012	H24.9.24 ～9.28	インド/ニューデリー	Indian Institute of Mineral Engineers及びIndian Institute of Metals
2012年粉末冶金国際会議 PM2012 YOKOHAMA	H24.10.14 ～10.18	横浜/パシフィコ横浜	日本粉末冶金工業会 (社)粉体粉末冶金協会
Neo Ceramics 2013 先端セラミックス&機能性ガラス 先進応用技術展・会議	H25.1.30 ～2.1	東京/東京ビッグサイト	公益社団法人日本セラミックス協会、(株)ICSコンベンションデザイン

9.3 後援

行事名	開催日	開催場所	主催団体
ACHEMA2012 見本市とドイツ・スイス粉体事情視察団	H24.6.17 ～6.23	ドイツ/フランクフルト、ダルムシュタット 他	日通旅行

10. 刊行物

10.1 月刊「粉体技術」 A4版 約100ページ

編集:「粉体技術」編集委員会

発行所:一般社団法人日本粉体工業技術協会

発行:月刊(市販1,530円/冊)(約1,500部)

10.2 日本粉体工業技術協会 事業案内(和文2012/2013年度版) A4版 11ページ

編集／発行所：一般社団法人日本粉体工業技術協会
発行：平成 24 年 8 月 (800 部)

10.3 日本粉体工業技術協会 事業案内(英文 2012-2013Edition) A4版 6 ページ
編集／発行所：一般社団法人日本粉体工業技術協会
発行：平成 24 年 5 月 (600 部)

10.4 日本粉体工業技術協会開催の各種セミナー・講習会と教育部門の講座用テキスト
編集／発行所：一般社団法人日本粉体工業技術協会 教育部門他
発行：各 50～100 部

10.5 APPIE annual Report 2012 A4版 2 ページ
編集／発行所：一般社団法人日本粉体工業技術協会
発行：600 部

10.6 会員名簿(和文)2012/2013 年度版 A4版 約 105 ページ
編集／発行所：一般社団法人日本粉体工業技術協会
発行：平成 24 年 9 月 (800 部)

10.7 会員名簿(英文)2012/2013 年度版 A4版 約 50 ページ
編集／発行所：一般社団法人日本粉体工業技術協会
発行：平成 24 年 9 月 (300 部)

10.8 粉体技術総覧 2012/2013 A4版 約 300 ページ
編集／発行：一般社団法人日本粉体工業技術協会
発行：平成 24 年 11 月 (誌本 5,000 部 CD 5,000 部)

10.9 「ナノ物質の安全な取り扱い」(仮題) A5 版 約 200 ページ
編集：一般社団法人日本粉体工業技術協会 特別委員会
発行所：日刊工業新聞社
発行：平成 24 年 5 月(予定) (税抜き 3,000 円 初版 1,800 部 予定)

平成24年度委員会及び分科会等の組織図

